

年  
報

津  
山  
弥  
生  
の  
里

第  
19  
号

津  
山  
弥  
生  
の  
里  
文  
化  
財  
セ  
ン  
タ  
ー

年報  
津山 弥生の里

第 19号 (平成 22 年度)

2012

津山弥生の里文化財センター

## 序

平成 23 年 3 月には、東日本大震災がおり多くの人命が失われ、家屋等の被害も想像を絶するものであり、あわせて多くの文化財についても甚大な被害をうけた事は記憶に新しく、本市においても改めて文化財に対する防災意識を、今以上高めていかねばと考えております。

さて、昨年度まで本文化財センター内に文化財課があり、課として文化財保護行政を担ってまいりました。今年度の機構改革では、文化財課と市長部局にあつた文化振興課が一緒になり生涯学習部文化課ができましたが、結局は文化財課ができる前の状態にもどった、つまり元のさやにおさまった形になったわけであります。

もちろん課名が変わっても業務内容は変わらず、文化財保護係と文化財センターの管理運営部門の 2 係が、今迄通り業務をおこなっております。

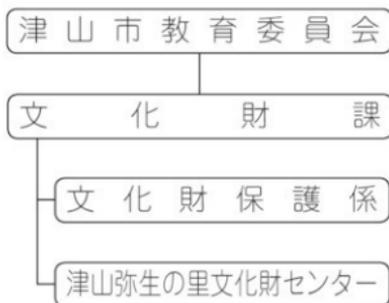
本年報は昨年度の事業成果をまとめたもので、今号で第 19 号になります。昨年度の事業は、開発や保存のための埋蔵文化財の発掘調査、史跡津山城跡の整備事業や史跡美作国分寺跡の公有化事業、新たな文化財指定や史跡の管理など、継続事業のほかに新規事業もございますので、ご一読いただければ幸いです。

最後になりましたが、本文化財センターでは今後も市内の文化財保護行政全般を担ってまいります。今後とも、関係機関皆様方のご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

平成 24 年 3 月 31 日

津山弥生の里文化財センター  
所長 赤松 直人

## 平成 21 年度機構図及び職員配置



課長 行田 裕美(文化財センター所長兼務)

文化財保護係長

小郷 利幸(同次長兼務)

主査 平岡 正宏(同主査兼務)

主任 仁木 康治(同主任兼務)

主任 豊島 雪絵(同主任兼務)

主事 岡崎 靖史(同主事兼務)

嘱託員 野上 恭子

◇ 岩本えり子

◇ 田淵千香子

## 例 言

1. 本書は、津山市教育委員会・文化財課が平成 22 年度に実施した事業概要などについてまとめたものである。
1. 平成 22 年度の埋蔵文化財発掘調査は、小郷利幸、平岡正宏、仁木康治、豊島雪絵、出土遺物の整理は上記の他、野上恭子、岩本えり子、田淵千香子が担当した。指定文化財の保存管理事業は小郷利幸、平岡正宏、仁木康治、豊島雪絵、岡崎靖史が担当した。本書の執筆は各担当者が行い編集は平岡がおこなった。
1. 本書のデータは、PDFフォーマットで保管している。

# 目 次

序 i

機構図及び職員配置 ii

例言 ii

第Ⅰ部 津山弥生の里文化財センター事業概要	1
Ⅰ-A 展示事業	3
Ⅰ-A-1 入館者数	3
Ⅰ-A-2 啓発、普及活動	3
Ⅰ-A-3 寄贈資料	4
Ⅰ-B 文化財センター日誌抄(平成22年度)	4
Ⅰ-C 埋蔵文化財発掘調査	6
Ⅰ-C-1 平成22年度届出関係一覧	6
第Ⅱ部 調査の概要	7
Ⅱ-A 市内遺跡試掘・確認調査報告	9
Ⅱ-A-1 美作国府跡確認調査	9
Ⅱ-A-2 旧津山藩別邸庭園(衆楽園)確認調査	13
Ⅱ-A-3 院庄構城跡確認調査	17
Ⅱ-A-4 美作国府跡発掘調査	17
Ⅱ-A-5 国分寺飯塚古墳測量調査報告	17
第Ⅲ部 文化財の保護・管理	19
Ⅲ-A 文化財の保護	21
Ⅲ-A-1 文化財保護委員会	21
Ⅲ-A-2 新指定の文化財	21
Ⅲ-A-3 文化財防火訓練	22
Ⅲ-B 指定文化財の保存管理	22
Ⅲ-B-1 国指定文化財	22
Ⅲ-B-2 県指定文化財	22
Ⅲ-B-3 市指定文化財	22
Ⅲ-B-4 その他の文化財	23
Ⅲ-C 歴史民俗資料館の管理運営	23
Ⅲ-C-1 加茂町歴史民俗資料館	23
Ⅲ-C-2 勝北歴史民俗資料館	23
Ⅲ-C-3 久米歴史民俗資料館	23
Ⅲ-C-4 阿波民具館	23
第Ⅳ部 資料紹介・研究ノート	25
Ⅳ-A 史料にみる泰安寺境内の変遷	27
Ⅳ-B 美作の舶犬(3)津山市	35



第I部

津山弥生の里文化財  
センター事業概要



## A. 津山弥生の里文化財センター展示事業

### 1. 入館者数

昨年度の入館者数は下表のとおりである。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
大人	142	160	92	41	62	33	61	84	34	31	53	56	849
学生	282	195	98	25	39	6	7	229	63	71	264	16	1,295
合計	424	355	190	66	101	39	68	313	97	102	317	72	2,144

表1 平成22年度総利用者数内訳

### 2. 啓発、普及活動

#### 【刊行物】

『年報 津山弥生の里 第18号』

#### 【講演会・研究会】

第29回津山市文化財調査報告会（参加者90名）

日時 平成22年3月13日（土）

場所 グリーンヒルズ津山 リージョンセンター

内容 「津山の町並み」

報告「津山市歴史的風致維持向上計画の概要」

津山市土木部次長 二摩慎一

講演「津山城下の町並み」

奈良文化財研究所 島田敏男 先生

美作考古学談話会（会員30名）

第1回5/22（土）

「トンボ玉をつくる」（豊島雪絵）

第2回7/31（土）

「津山城跡の発掘調査について」（豊島雪絵）

第3回9/11（土）

「出土遺物の保存処理」（小郷利幸）

第4回12/11（土）

「佐良山古墳群を歩く」（仁木康治）

第5回2/19（土）

「津山城の石垣修理」（平岡正宏）

第6回3/8（土）

「最古の須恵器窯・出合窯について」（仁木康治）

#### 【速報展】

発掘調査速報展

「津山の歴史を握る一回展覧会」

・中宮1号墳：須恵器、土師器、円筒埴輪、鉄鍬、馬

具（髷、鏡、雲珠、鏡板）、小玉（土製、ガラス製）  
・六ツ塚古墳群：須恵器、土師器、円筒埴輪、小玉（ガラス製）

#### 【収蔵資料の貸し出し・調査等】

##### 【考古資料】

◎古川弘文館「史跡で読む日本の歴史2古墳時代」に大藏池南製鉄遺跡の写真掲載依頼（4月）

◎出雲弥生の森博物館特別展「弥生人の彩エッセー出雲王が愛した色一」に有本遺跡のガラス管玉6点を貸し出す（7月～10月）

◎くらしき作陽大学澤田秀実さん殿田1号墳出土銅鏡ほか計7点を調査（6・9・3月）

◎日本アート・センター「週刊真説歴史の道第26号」に矢筈城の写真掲載依頼（6月）

◎九州大学細畑孝さん殿岡1号墳ほかの陶棺を調査（8月）

◎岡山県立博物館特別展「暗れの国の名宝一岡山の国宝・重要文化財一」に柳谷古墳の銀象嵌頭椎大刀柄頭ほか計11点貸し出す（9月～12月）

◎赤磐市山陽郷土資料館企画展「赤磐の歴史」に美作国分寺跡の瓦ほか計3点貸し出す（10月～12月）

◎総社市教育委員会松尾洋平さん殿紫保井遺跡陶馬、宮尾遺跡土馬計2点を調査（9月）

◎岡山県教育委員会小林利晴さん殿美作国府跡の「苦」刻印土器ほかを調査（9月）

◎岡山県立博物館冬季・春季展「装飾大刀の世界」に柳谷古墳の銀象嵌頭椎大刀柄頭、鞘尾金具計2点貸し出す（12月～4月）

◎十象舎「週刊戦国武将データファイル第50号」に所有者承諾を得て森忠政公木坐像写真を掲載許可（3月）

##### 【民俗資料】

◎佐良山小学校重松瑞恵さんに糸綱ほか計11点を貸し出す（1月）

##### 3. 寄贈資料

下記の方から資料の寄贈がありました。寄贈いただいた資料は文化財センター資料として保存活用させていただきます。（敬称略）

##### 【考古・歴史資料】

## B. 文化財センター日誌抄（平成21年度）

藤田松治（加茂町字野）鬼瓦 1点	
可児道宏（黒公文）銅鏡 1点、耳環 3点、勾玉 3点、管玉 2点、切子玉 4点、丸玉 1点、白玉 3点、ガラス小玉 4点	
	計21点
【民俗資料】	
田島久男（津山市山北）電気式蓄音機 1点、EPレコード 40点、テニスラケット 1点木製看板 1点	
	計43点
清水奏博（津山市河辺）千歯 1点、かます 2点	
	計3点
有元 正（岡山市北区横井上）滑車の重り 1点、灰汁取り鉢 1点、千両箱 1点	
	計3点

4月8日	障害者に史跡津山城跡を開放するための登城路整備
4月25日	神楽尾城跡保存協力会第25回総会に出席（行田）
5月19日	文化庁武内正和調査官（建造物担当）本源寺、妙法寺、泰安寺視察
5月20日	岡山県近代和風建築総合調査説明会出席のため岡山市に出張（小郷・岡崎）
5月22日	第1回美術考古学談話会の開催（豊島）
5月27日	全国公立埋蔵文化財文化財センター連絡協議会総会出席のため山口市に出張（平岡、～28日）
6月9日	中道中学校チャレンジワーク（～11日）
6月13日	美作の中世山城連絡協議会総会に出席（小郷）
6月14日	史跡津山城跡確認調査開始（～1月13日、豊島）
6月16日	東中学校チャレンジワーク（～18日）



6月25日	市町村文化財担当協会会議のため岡山市に出張（小郷、岡崎）
7月22日	全国史跡整備市町村協議会中国地区協議会出席のため安芸高田市に出張（～23日、豊島）
7月28日	岡山県史跡整備市町村協議会総会出席のため倉敷市に出張（行田・小郷・岡崎）
7月29日	第1回神伝流映像記録作成委員会、第1回高田神社獅子舞映像記録作成委員会開催
7月31日	第2回美術考古学談話会の開催（豊島）
8月11日	津山やよいライオンズクラブによる沼弥生住居址群草刈

- 9月11日 第3回美作考古学談話会の開催（小郷）
- 9月30日 全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会中国・四国・九州ブロック会議を津山市で開催（～10月1日）
- 10月19日 全国史跡整備市町村協議会大会参加のため奈良市に出張（～20日、行田）
- 10月26日 重有民田熊の舞台防災事業民俗文化財防災施設事業委員会、重文木造隨身立像ほか美術工芸品保存活用整備事業委員会開催
- 11月8日 中宮1号墳石室等修繕工事（～17日、仁木）
- 11月15日 東中学校チャレンジワーク（～17日）



- 11月18日 「大人の学校—なるほど！歴史講座—」のため鶴山中学校で講演（平岡）
- 11月24日 全国史跡整備市町村協議会臨時大会参加のため東京都に出張（～25日、岡崎）
- 11月30日 第28回史跡津山城整備委員会開催
- 12月1日 第1回津山市文化財保護委員会開催
- 12月9日 文化庁西和彦文化財調査官（建造物担当）ふるさと文化財の森候補地の視察（小郷・平岡）
- 12月11日 第4回美作考古学談話会の開催（仁木）
- 12月15日 文化庁林良彦主任文化財調査官（伝統的建造物群部門）伝統的建造物群の現地指導（行田・小郷）
- 1月12日 美作国府跡確認調査（～1月27日、平岡）
- 1月18日 奈良文化財研究所高田敏男建造物研究室長町並みの調査（～19日、行田・小郷）
- 1月24日 衆楽園確認調査（～2月22日、仁木）
- 1月25日 妙願寺等で文化財防火査察（～26日、小郷・岡崎）
- 1月27日 第8回全国城跡等石垣整備調査研究会のため鳥取市に出張（～29日、平岡・豊島）

- 1月28日 美作国府跡（民間）本調査開始（～2月11日、仁木）
- 1月30日 高野神社で文化財防火訓練（行田・小郷・岡崎）
- 2月7日 構城跡確認調査（～3月3日、平岡）
- 2月12日 第29回津山市文化財調査報告会開催（90名参加）
- 2月14日 全国社寺等屋根工事技術保存会田中敬二会長外ふるさと文化財の森現地調査（小郷）
- 2月16日 岡山県史跡整備市町村協議会研修会を岡山市で開催（行田・小郷・岡崎）
- 2月17日 文化庁美術学芸課伊東哲夫文化財調査官、高野神社収蔵庫現地指導（行田・小郷・岡崎）



- 2月18日 県文化財課宇垣雅総括副参事構城跡確認調査を視察
- 2月19日 第5回美作考古学談話会の開催（平岡）
- 3月1日 文化庁武内正和調査官（建造物担当）本源寺等現地調査（～2日、行田・小郷・岡崎）
- 3月6日 史跡美作国分寺跡公有化事業地元説明会
- 3月12日 第6回美作考古学談話会の開催（行田）
- 3月29日 第29回史跡津山城整備委員会開催
- 3月30日 第2回津山市文化財保護委員会開催

## C. 埋蔵文化財発掘調査

### 1. 平成21年度届出関係一覧

埋蔵文化財発掘の届出（法第93条）

遺跡名	所在地	工事種別	期間	面積（㎡）	津山市発番	発掘日	発掘事項	実施日	備考
中原遺跡	中原 59-10、57-2	個人住宅	4.9～未定	210.73	津教委文第13号	4.1	立会	7.30	遺構有り、遺物無し
美作国府跡	山北 35-12	個人住宅	未定	13.25	津教委文第122号	4.21	立会		
堀井古堂遺跡	堀井 2463、2464-3	個人倉庫	7.1～	870.69	津教委文第186号	5.7	立会	6.16	遺構・遺物有り
美作国府跡	小原 10-6、10-10	個人住宅	未定	114.68	津教委文第268号	5.27	立会		
河辺上新遺跡	河辺 1949-4	個人住宅	6.30～10.30	40	津教委文第332号	6.15	立会		
美作国府跡	小原 10-6、10-10	個人住宅	未定～11.7	114.46	津教委文第369号	6.29	立会		
津山城跡	山下 55-8	個人住宅	未定	268	津教委文第358号	6.24	立会	8.2	遺構・遺物無し
勝部国司尾遺跡	勝部 535-1 外	資材置き場	10.15～12.31	374.44	津教委文第642号	9.8	立会		
勝部国司尾遺跡	勝部 536-8	個人住宅	9.21～1.21	232.38	津教委文第688号	9.16	立会		
松原日遺跡	二宮大成 1521	遊戯設備	2.20～6.30	277	津教委文第1131号	1.4	確認調査	9.21	遺構・遺物無し
美作国府跡	総社 408-1	農業関連	未定	680	津教委文第1156号	1.11	発掘調査	1.26～2.13	遺構・遺物有り
勝部国司尾遺跡	勝部 536-3 外	宅地造成	3.10～5.31	1,658.8	津教委文第1210号	1.21	立会	4.7	遺構・遺物無し
中原三ツ木遺跡	中原 752-1	個人住宅	4.10～5.31	203	津教委文第1432号	3.7	確認調査	4.2	遺構・遺物無し
夜半廣寺跡	高野本郷 1033-6 外	個人住宅	未定	184.77	津教委文第1435号	3.7	立会	3.16	遺構・遺物無し
中原遺跡	堀力 223-5	個人住宅	5.25～8.10	137.2	津教委文第1518号	3.22	立会	6.15	遺構・遺物無し

埋蔵文化財発掘の届出（法第94条）

遺跡名	所在地	工事種別	期間	届出者	津山市発番	発掘日	発掘事項	実施日	備考
中宮1号墳	福田 30-1 外	遺跡整備	10.1～12.20	津山市山北520 津山市長 宮城元祐	津教委文第625号	9.6	立会	11.8～11.17	遺物無し
美作国分寺跡	国分寺 273-9 外	上水道工事	11月下旬～3.15	津山市山北520 津山市水道事業管理者 菅原俊介	津教委文第933号	11.18	立会	1.9	遺構・遺物無し

埋蔵文化財発掘調査の報告（法第99条）

遺跡名	所在地	遺跡種別	調査期間	面積（㎡）	原因	津山市発番	発掘日	調査担当	備考
奈良園	山北 546-47	庭園	1.24～2.28	20	遺跡整備	津教委文第1198号	1.24	仁木康治	本書参照
美作国府跡	総社 408-1	官衙	1.26～2.25	185	開発事業	津教委文第1228号	1.26	仁木康治	本書参照
院庄橋城跡	院庄 556、530-1	城跡	2.7～3.18	60	遺跡整備	津教委文第1371号	2.7	平岡正宏	本書参照

埋蔵文化財試掘・確認調査の報告

郷地及び遺跡名	周知・未周知	所在地	調査期間	面積（㎡）	原因・包地状況	津山市発番	発掘日	調査担当	備考
鉢石山遺跡	周知	市場 452-2	4.13	24.3	遊戯設備・無	津教委文第91号	4.13	仁木康治	
野田蔵遺跡	周知	柳家 1411-1 外	3.8～3.31	800	クリーンセンター・有	津教委文第103号	4.16	豊島雪絵	
美作国府跡	周知	総社 408-1	1.17	23.1	農業関係・有	津教委文第1182号	1.18	仁木康治	

第Ⅱ部  
調査の概要



## A. 市内遺跡試掘・確認調査報告（平成22年度）

津山市が平成22年度に国庫補助事業（市内遺跡発掘調査等）でおこなった事業についての概要報告である。調査は、開発に伴う確認調査（美作国府跡）、保存に伴う確認調査（衆楽園、院庄構城跡）、開発に伴う発掘調査（美作国府跡）、国分寺飯塚古墳測量調査の5件である。

### （1）美作国府跡確認調査

- a. 調査地 津山市山北13-1番地 外
- b. 調査期間 平成23年1月12日～1月31日
- c. 調査面積 約48㎡
- d. 調査の概要

市道建設に伴い、美作国府跡の遺構の有無の確認のため、トレンチを設定し調査を実施した。

市道建設予定地は住宅密集地であり、現状で調査可



第1図 調査位置図 (S=1:25,000)



第2図 確認調査トレンチ配置図 (S=1:3,000)

な場所が極めて限定されたが、国府城の台地上に1カ所、台地から低地への傾斜地に1カ所、低地に3カ所の計5カ所である。トレンチ番号は、西から順に1～5とした。

### トレンチ1 (T1)

国府城が想定される台地上のトレンチである。規模は3m×5mである。県道に近接しており、岡山県古代吉備文化財センターが県道建設に先立ち調査を実施した幸畑調査区に隣接した場所である。

現状は水田であり、厚さ20cmの耕作土の直下は地山であった。遺構・遺物は認められない。

### トレンチ2 (T2)

台地からなだらかに下る斜面上の2m×5mのトレンチである。トレンチの西から13mの場所で基盤層が30cm程削られて段状になっており、段から30cm程度東に幅20～30cm、深さ10cm程度の溝が認められた（溝1）。トレンチの東端では幅1m以上、深さ40cm以上の溝状の遺構が確認できた。大部分がトレンチの外側になり、その規模は不明であるが、比較的規模の大きい南北方向の溝と思われる（溝2）。溝2からは須恵器・土師器等が出土している。時期は概ね中世である。

### トレンチ3 (T3)

台地を下りきった低地の水田に設定した2m×5mのトレンチである。耕作土を除去した時点で湧水があり、50cm程度以下は掘り下げることができなかった。基盤層は確認できていない。

遺構・遺物は認められない。

#### トレンチ4 (T4)

トレンチ3からやや東に設定した2m×5mのトレンチである。耕作土から60～70cm程度掘り下げたところで、明黄褐色粘質土の基盤層を確認した。

遺構・遺物は認められなかった。

#### トレンチ5 (T5)

今回の調査で最も東側のトレンチである。耕作中の畑の空きスペースに設定したため、1m×3mの小規模なトレンチである。耕作土より20～30cm掘り下げたところで、礫層を確認した。さらに掘り下げても砂礫層で変化が認められなかったため、この砂礫層が基盤層であると思われる。

遺構・遺物は認められなかった。

#### e. まとめ

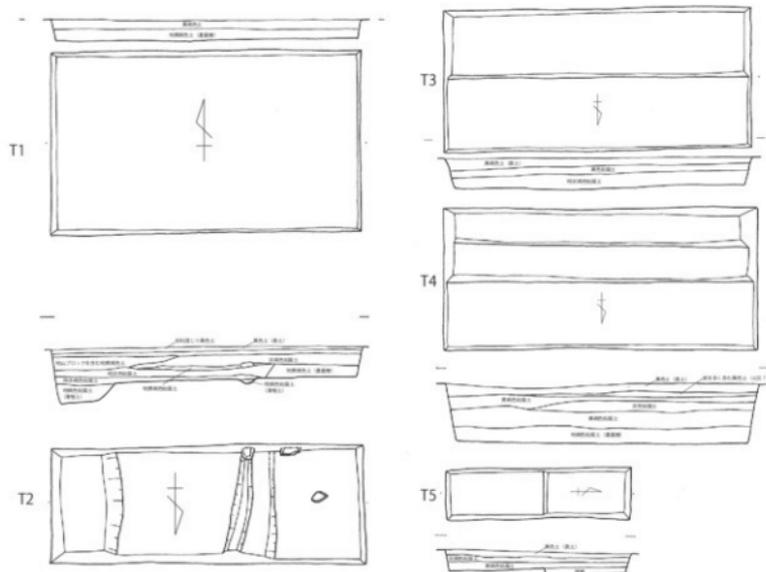
今以上5カ所のトレンチの概要を説明してきた。

トレンチ1は表土直下が基盤層であり、遺構は認められなかったが、隣接地の界の調査で遺構・遺物が確認されているため、さらに広範囲の調査が必要と思われる。

トレンチ2では、南北方向の比較的大きい溝が確認できているため、今後はこの溝の全容を調査する必要がある。

トレンチ3～5の低地では遺構・遺物ともに認められなかった。しかしながらトレンチ3・4は周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲内であり、今後住宅の撤去等が進んだ時点で、あらためて詳細な確認調査が必要である。

(平岡正宏)



第3図 トレンチ平・断面図 (S=1:80)



T1 調査前 (東から)



T1 調査後 (西から)



T2 調査前 (南から)



T2 調査後 (東から)



T3 調査後 (東から)



T3 調査後 (北から)



T4 調査後 (東から)



T5 調査後 (東から)

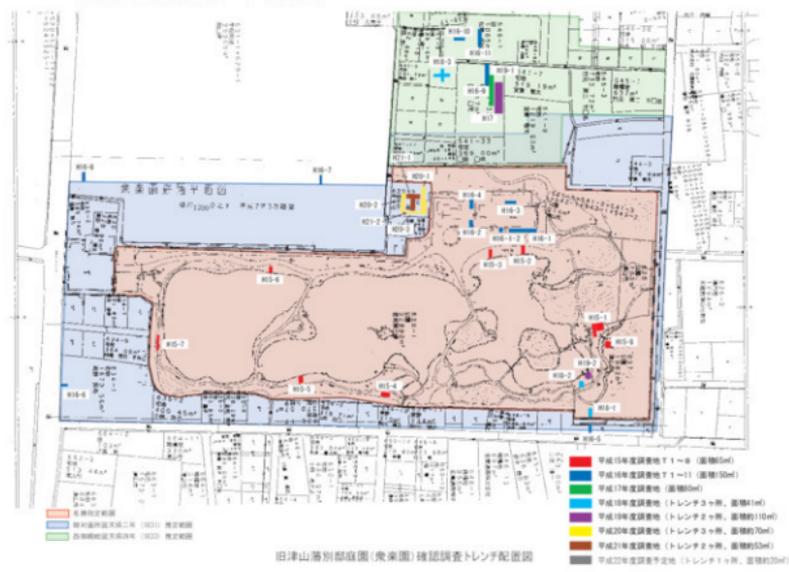
## (2) 旧津山藩別邸庭園(衆楽園)確認調査

- a. 調査地 津山市山北546-7番地  
 b. 調査期間 平成23年1月24日～  
 平成23年2月22日  
 c. 調査面積 約20㎡  
 d. 調査の概要

旧津山藩別邸庭園(衆楽園)は、平成14年9月に国の名勝に指定された。その後、庭園についての基礎資料を得るため、平成15年度から確認調査を実施し、



第1図 遺跡位置図 (S=1:25,000)



平成17年度には庭園の将来的な保存のための基本方針である『名勝旧津山藩別邸庭園(衆楽園)保存管理計画』を策定した。これまでの調査成果としては、庭園内に造られた「御対面所」御殿の礎石、庭園の周囲を巡っていた「大溝」の遺構の一部、および西御殿の建物の雨落溝や建物礎石、「曲水」の構造や集排水施設、その他掘立柱列等を確認している。

今年度の調査は、遺跡範囲のうち西御殿絵園(天保四年)以西の関連遺構の所在確認を目的として実施した。トレンチは2m×10mのものを1か所設定した。

平成22年度調査においては、南北方向に長さ10m×幅2mのものを設定した。耕土以下は、灰色粘質土、黒褐色粘質土が認められ、以下はトレンチ北半が灰白シルト状の粘質土、南半は青灰色砂礫層となりいずれも湧水が著しく、以下の掘り下げは行っていない。レベル的にみて、黒褐色粘質土上端が旧地表面と推測されるが、遺構は全く認められなかった。

また、出土遺物は耕土から黒褐色粘質土までの範囲で、須恵器及び陶磁器・瓦片などが若干出土した。



第3図 旧津山藩別邸庭園(衆楽園)確認調査(H22年度)トレンチ図 S=1/50

今年度の調査地点は、埋蔵文化財包蔵地としての衆楽園の範囲に包含されるものの、確認調査の状況から、庭園関連遺構等は認められなかった。ただし、トレンチによる限定的な調査であるため、周辺地域の調査を可能な限り実施し、調査成果の確度を高める検証を行っていく必要があるといえる。

(仁木康治)



西断面(北東から)



調査前(北東から)



作業状況(北東から)



完掘後全景(北東から)



埋戻し完了後(北東から)

### (3) 院庄構城跡確認調査

- a. 調査地 津山市院庄 556・530-1番地  
b. 調査期間 平成23年2月7日～  
平成23年3月3日  
c. 調査面積 約60㎡



第1図 遺跡位置図 (S=1:25,000)

#### d. 調査の概要

構城跡は様々な文献にその名前を見ることができ、その実態は必ずしも明らかではない。そのため、津山市教育委員会では構城跡の規模・構造等を確認する事を目的として平成19年度から確認調査を実施中である。今年度は4年目にあたり、これまで部分的に確認してきた堀について、北西隅と北東隅の詳細な状況確認のた

めのトレンチを2本設定し、調査を実施した。

平成19～21年度までの調査により、堀全体の概略を確認している。また、構城の堀の規模は、「森家先代実録」に記述があり、西・北・東の堀の幅がその記述に概ね合致していることが明らかになっている。

2本のトレンチの概要を記す。

#### トレンチ12 (T-12)

堀の北西部の確認のために設定した。長さ20m、幅1.5mのトレンチである。上層は現在の耕作土・床土の下に旧水田層が1～2枚認められ、その直下に砂礫層(洪水層)が確認できた。

トレンチの中央部分に30cm大から拳大の礫の集積が認められ、この付近が堀の外側の護岸部分ではないかと思われる。この遺構から東方向には2m程度円礫が堆積していた。トレンチの最下層には、堀の底の堆積と思われる青灰色粘質土が堆積していた。

堀の護岸と思われる遺構の西側には、地山を高さ30cm程度、幅2m程度台状に削り残した部分が認められたが、性格は不明である。護岸状遺構の外側にも青灰色粘質土が堆積しており、堀の外側も湿地帯であった可能性も考えられる。

#### トレンチ13 (T-13)

堀の北東部の確認のために設定した。長さ20m、



第2図 トレンチ位置図 (S=1:300)

幅 1.5 m のトレンチである。上層は現在の耕作土・床土の下に旧水田層が 1 枚認められ、その下には地山の基底レベルまで厚く砂礫が堆積していたが、堀の堆積物と思われる青灰色粘質土は確認できなかった。堀は

さらに北東側にあることが推定される。

本年度の調査成果を踏まえて、堀の範囲を推定したのが図 2 である。

(平岡正宏)



第3図 T1 平面図・土層断面図・立面図 (S=1/100)



T12 調査前 (西から)



T 12 調査後 (西から)



T 12 土層 (北西から)



T12 埋戻し後 (西から)



T 13 調査前 (北東から)



T13 調査後 (北東から)



T13 調査後 (南西から)



T13 土層 (西から)

#### (4) 美作国府跡発掘調査（個人農地）

a. 調査地 津山市総社 408-1 番地

b. 調査期間 平成 23 年 1 月 26 日～

2 月 13 日

c. 調査面積 約 181m<sup>2</sup>



第 1 図 遺跡位置図 (S=1:25,000)

d. 調査の概要

津山市総社地内において個人による農地整備事業（ほ場整備）が計画され、平成 23 年 1 月に津山市教育委員会に施工予定業者から事前協議がなされた。津山市教育委員会は、計画図等から高位の水田を切り下げる計画であることを確認し、当該事業予定地が周知の遺跡「美作国府跡」の遺跡範囲に該当していることを説明した。そして、工事区域のうち削平対象となる部分について事前に確認調査を実施するよう指導し、調査結果に基づいて取り扱いを決定するよう協議した。確認調査の結果、ピット等が検出されたことから、遺構の取り扱いについて引き続き協議を行い、上記の部分进行全面調査することで地権者の了解が得られたため発掘調査を実施した。

調査にあたっては、確認調査の状況から相当の排土量が予測されたことから、調査期間の短縮を図るためバックホーを借り上げ、包含層（2 次包含層）を排土した後に作業員による遺構検出作業と検出遺構の掘り下げ作業を行った。確認された遺構は、ピット・溝・土壌・石列および水溜め遺構などである。

ピットは弥生時代、古代～中世および近世の時期が考えられ、一部に柱根や石材を伴っているものもあった。調査段階では判断に至らなかったが、建物等に復元されうる可能性が高く、今後の整理において詳細な

検討が必要である。

溝については、溝 1 は古代～中世、溝 2 は弥生、溝 3 及び 4 は近世とみられるものである。溝 3 のみは狭い U 字状の断面を示し、深さは最深处で約 0.6m を測る。

土壌は、土壌 1～3 は近現代、土壌 7 は埋土から弥生時代のものと考えられ、それ以外のものは近世とみられる。これらは丁寧に埋め戻されており、粘土探掘に伴う土壌の可能性が高い。

石列は約 11m にわたって確認された。この付近で産出する石材を使用し、浅い溝状の掘り方に粘質土を充填した上に、石材の面を南側にそろえて積み上げられているが、水溜め遺構以西では礫のみの検出である。そして、水溜め遺構は東西約 3.3 m、南北約 3.4 m の土壌の 2/3 を掘り下げて底面レベルを揃え、その内部に石材を底面から内側の面を揃えて積み上げているものである。石組みの規模は内法で東西約 2.6 m、南北約 1.9 m を測り、残存高は最大で底面から約 0.7 m である。加えて、石材が東西に踏み石状に各 1 個、そして北側中央部に直立した状態で 1 個置かれていた。これらの遺構の所属時期はいずれも出土遺物等から近世と判断される。

出土遺物は、弥生土器・須恵器・土師器・瓦・陶磁器片や磨製石斧、柱根ほか整理用コンテナで約 7 箱出土した。

今回の調査地点においては、国府存続期に属する明確な遺構を確認することはできなかったが、中世～近世期における当該地の状況に関する資料を得ることができた。特に粘土探掘土壌や水溜め遺構については検出例が少なく、貴重なデータとなると思われる。

(仁木康治)



第2図 遺構配置図 (S=1:100)



確認調査トレンチ (北西から)



調査地遠景 (東から)



調査前 (北西から)



調査区全景 (南西から)



調査区全景 (北東から)



柱根の残る柱穴 (P47)



溝4 (北から)



土壌群 (西から)



土壇1 (南東から)



土壇2・3 (北東から)



土壇7



土壇5・10・11 (西から)



石列 (東から)



水溜め遺構全景 (南東から)



水溜め遺構全景 (南から)



作業状況 (北西から)

(5) 国分寺飯塚古墳測量調査報告

- a. 測量地 津山市国分寺213番地 外
- b. 測量期間 平成22年 月 日
- c. 測量面積 約149㎡
- d. 測量の概要

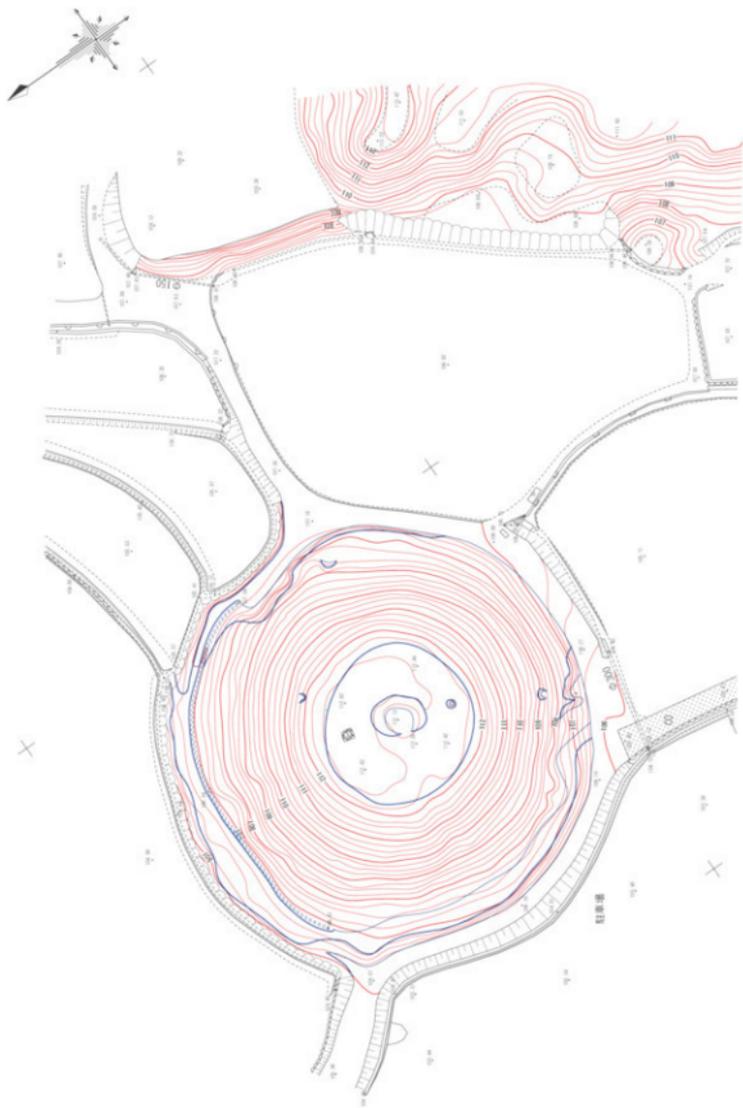


第1図 遺跡位置図 (S=1:25,000)

津山



国分寺飯塚古墳 (北東から)



第2図 国分寺飯塚墳丘測量図 (S=1:500)

## 第Ⅲ部

### 文化財の保護・管理



## A. 文化財の保護

### 1. 文化財保護委員会

第1回：12月1日、第2回：3月30日

### 2. 新指定の文化財

《国登録有形文化財》

旧中島病院本館（建造物、9月10日付け）

《県指定文化財》

木工芸小椋芳之（無形文化財、3月4日付け）

《市指定文化財》

泰安寺境内・大隅神社境内（史跡、5月21日付け）

殿田1号墳及び荒神西古墳出土遺物

（考古資料、1月25日付け）



旧中島病院本館・木工芸小椋芳之・泰安寺境内（上から）

### 3. 文化財防火訓練

1月30日 高野神社



大隅神社境内



殿田1号墳（上）及び荒神西古墳（下）出土遺物

## B. 指定文化財の管理

### 1. 国指定文化財

《建造物の修理等》

中山神社・鶴山八幡神社・総社防災設備保守点検

《工芸品収蔵庫の修理》

高野神社収蔵庫改修事業



高野神社収蔵庫

《史跡の公有化、整備》

美作国分寺跡の公有化事業（6年次）

・土地4筆の購入、建物移転補償、草刈、啓発看板の設置

・地元説明会の開催：3月6日

津山城跡の保存整備事業

・天守曲輪西半整備事業（5年次・七番門虎口の土系舗装）

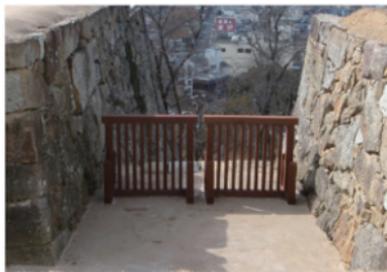
・説明板設置（五番門・七番門）

・月見槽下石垣周辺の発掘調査

・月見槽下石垣の測量及び修理検討資料の作成

・「津山城だより No.15」の刊行

・整備委員会の開催：11月30日、3月29日



七番門虎口整備状況



説明板設置状況（七番門）

《史跡の管理、草刈等》

美和山古墳群の管理、草刈・剪定

三成古墳の草刈、院庄館跡の管理・草刈

《天然記念物の管理》

トラフダケ自生地の管理

《有形民俗の防災点検》

田熊の舞台防災施設設置・防災設備保守点検

### 2. 県指定文化財

《史跡の草刈》

日上天王山古墳・日上飯山古墳群草刈

久米庵寺跡草刈

矢筈城草刈

岩屋城草刈・案内板設置

《天然記念物の管理》

尾所の板の管理

《無形民俗の補助》

新野まつり、八幡神社・物見神社の花祭りの保存伝承への補助

### 3. 市指定文化財

《史跡の草刈等》

沼遺跡草刈・剪定

井口車塚古墳草刈

中宮1号墳石室等修繕・草刈

飯塚古墳草刈

正仙塚古墳草刈

狐塚古墳草刈・枯木処理

足山1号墳草刈



中宮1号墳石室内部

煙硝藏跡草刈・進入路の修繕  
 茶屋の一里塚管理  
 神楽尾城跡草刈・倒木の処理・標識板の設置  
 荒神山城跡草刈・標識板の設置  
 医王山城跡草刈  
 西登山金屋寺草刈  
 河辺上之町草刈  
 愛山松平家墓所唐門修繕 <写真>



愛山松平家墓所唐門修理後

(建造物の修理等)

大隅神社昭徳館床の修繕  
 地藏院防災設備の設置

#### 4. その他の文化財

津山中核工業団地内古墳（一貫東1号墳）公園草刈

### C. 歴史民俗資料館の管理運営

#### 1. 加茂町歴史民俗資料館

利用者数 163人、社会福祉法人津山市社会福祉協議会（加茂町福祉センター）に管理を委託

#### 2. 勝北歴史民俗資料館

利用者数 138人、消防用設備保守管理委託、清掃・燻蒸・整理作業

#### 3. 久米歴史民俗資料館・民具館

利用者数 72人、消防用設備保守管理委託

#### 4. 阿波民具館

利用者数把握できず



## 第Ⅲ部

### 資料紹介・研究ノート



## 史料に見る泰安寺境内の変遷

乾 貴子

はじめに

津山松平藩主菩提寺の泰安寺(津山市西寺町12)は、寛永21年(1644)に津山城下に創建された浄土宗寺院である。

境内には17世紀建立の本堂をはじめ、19世紀半ば頃の造営とされる御霊屋、客殿・庫裡・表門・地藏堂といった建造物のほか、森藩初代藩主宣富、同第2代藩主長継第13子森大吉(良洪院)、松平藩第7代藩主斉孝、同妻涼晴院の供養塔が祀られている。いずれも境内地全域が津山市指定史跡となっている大名家ゆかりの貴重な遺構である。

泰安寺に関する史料としては、津山松平藩文書(津

山郷土博物館所蔵史料「愛山文庫」の中には、法要が営まれた際の見取図や、普請・作事に際して作成された設計図・出来図などの絵図や書付が多く伝存している。

内訳は、普請・作事などの工事に際して藩の作事方が作成したと思われる絵図10点余(愛山文庫M7-7)、法要に際して寺社奉行が作成したと思われる絵図や書付の19点(愛山文庫C2)となっている。

以下、これまでに渉猟した造営・改修等に関する文献史料を援用しながら、これらの絵図を元にして、泰安寺の改修履歴について検討をおこなう。



図1 愛山文庫M7-6「泰安寺考之図面 同寺古図面法」書き起こし

## 1. 寛政期の本堂・客殿改修

泰安寺本堂は、寛永21年(1644)の建立から50年を経た寛政6年(1794)に改修を施している(『寛政7年本堂修復棟札』)。藩主康哉の死去後に着工、翌年に終了している。

愛山文庫には、この時期に該当すると考えられる絵図が2点ある(図1・2)。

1つは、愛山文庫M76『泰安寺考之図面 同寺古図面法』2点のうち1点(図1)。本堂改修前の境内を描いたものと考えられる絵図である。伽藍の様子から、愛山文庫に伝存する同寺絵図の中で最も古い時代のものと推定される。

もう1つは、愛山文庫M73『泰安寺絵図』(年未詳)。これは、寛政7年7月に時宗の遊行上人(藤沢遊行寺第54代尊祐)が岡山藩に布教のため廻国した時のものである(図2)。

上人は津山に立ち寄り、泰安寺に止宿している(愛山文庫E8『勘定奉行日記』寛政7年10月18日条)。

同絵図はこの時に作成されたものだろう。「上人居間」などの朱書による書き込みや、道具類の準備場所を指示する記載がある。藩の勘定方の日記によると、上人一行の宿坊(泰安寺はか5ヶ寺)の改修のために銀札2貫余もの工事費用を計上している(『勘定奉行日記』同日条)。この前年の同寺本堂改修費5貫に次ぐ多額の改修費である。

この2つの絵図を見比べると、本堂を改修した時期に客殿を増改築したことや、庫裡は当時はまだなかったことなどがわかる。

また、鐘樓は本堂改修の頃にはすでにあったが、弁天堂、地藏堂はこの時期に祀られていることがわかる。前者の絵図には鐘樓はあるが、祠堂の類はない。

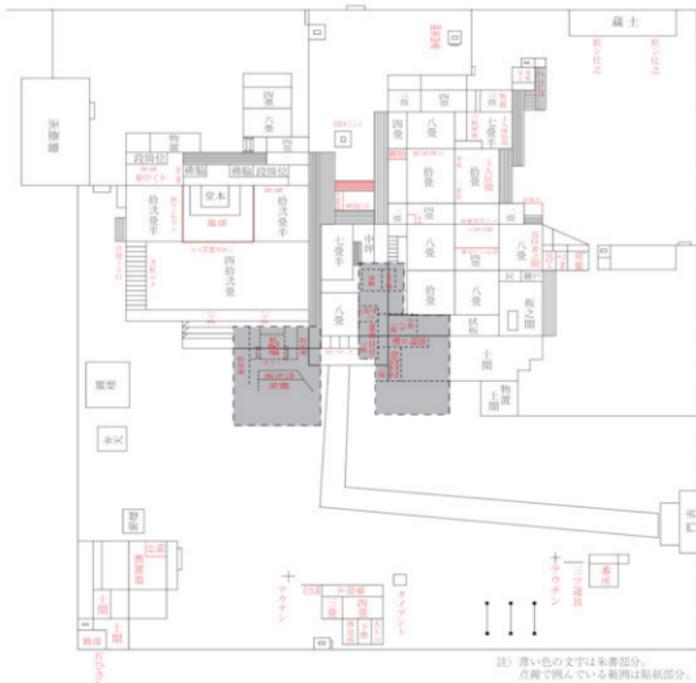


図2 愛山文庫M7-3『泰安寺絵図』年不詳 書き起こし

## II. 天保期の伽藍改修

寛政年間次の大改修は、天保13年(1842)の御霊屋造営の際である。天保9年の第7代藩主斉孝(天保9年没)死去により造営された。現在の伽藍が成立したのはこの頃とされている(『津山の社寺建築』津山市教育委員会、昭和63年)。

愛山文庫E8『勘定奉行日記』によると、天保12年から造営が計画され、翌13年に着工、14年に完成。その間、境内の立入を全面的に禁止していることがわかる。また、御霊屋造営時の地突きには、城下の各町から参加している。他の城下寺院には見られない珍しい例である。工事期間・動員数からみて大規模工事だったことがわかる(表1)。

御霊屋造営の前後で大きく変わった点は、表門が境内北から東に移されている点である。現存の表門は17世紀の建造物であり、御霊屋造営の時期に移築さ

れたものであることは、すでに指摘されているところである(『津山の社寺建築』)。

このほかの主な変更は、文化年間頃の本堂の裏(境内西側)にあった藩主一族の五輪塔は初代藩主宜富の五輪塔と森家の五輪塔1基を除いて一掃し、本堂・客殿の背後にあった位牌所、土蔵、塀を取り払っている点である。愛山文庫M7-2『泰安寺御廟所絵図』文化元年7月には、本堂裏に藩主一族の五輪塔8基が図示されているものの、現在は上記の2基しか残っていない(図3・4・5)。おそらく御霊屋造営のため取り除かれたため、天保13年以降の絵図には描写がないのだろう。御霊屋の造営にあたり、代々の供養塔や位牌を整理したものと考えられる。

御霊屋は第8代藩主斉民の発願によるものであったことは、自ら撰した上梁文の内容からわかる(愛山文

年	西暦	月	日	出来事	修復内容	史料	
寛永21年	1644	7月	古辰		泰安寺建立	〔本堂建立確証〕	
寛政6年	1794	10月	19日	第5代藩主齊	本堂ほか修復	〔建替死〕	
寛政7年	1795	12月	18日	藩主齊	一、泰安寺及大蔵院二村修復費事給五頁目金、今日相所地廻願願一		
		2月	3日	藩主齊	一、泰安寺普請二村御霊屋之修脚脚一御修之旨候由		
		5月	28日	藩主齊	一、泰安寺所々取繕九百金御願一		
		6月	18日	道行上	一、泰安寺御所所々修脚脚一届出		
				人廻問	一、右同所御成門上り口之口之是迄心無一		
			23日		普請の修費	一、泰安寺道行上人之返問二相成候所大蔵二村往人物等二面も不致候所ノ願相請旨	
		7月	3日		普請出来	一、泰安寺御堂外普請石調帳(出来之旨文大目付へ申進之)	
		8月	18日		泰安寺・栄観寺・成道寺ほか修繕	一、御行願二村泰安寺其外流花院泰安寺寺家超願院且又栄観寺成道寺取繕願人用積費六頁八拾為金之旨一	
			23日			一、御屋敷普請出来二村野狩木江本給物村積旨一	
			10月	18日		一、道行上人取取積作事人用左之通積書一四ノ取繕先進面同普請出候分一 式頁八拾八分五厘一 右同所普請六百四拾八分九厘九	
天保9年	1838	2月	3日	第7代藩主齊	御願所出来	〔齊孝死〕	
天保10年	1839	3月	25日	藩主齊	一、泰安寺御願所御出来二村大目付見分一		
		11月	11日	藩主齊	一、泰安寺御願所御出来二村御見分一		
天保11年	1840	10月	23日		普請掛封	一、泰安寺立書之通大目付之相願問件事方へ相達ス	
天保12年	1841	2月	23日		普請準備	一、作事方ノ泰安寺御普請二村御用普請二村之御願所奉納仕度普請書申出	
		3月	11日			一、明願泰安寺一作事方ノ奉納材木相達候付	
		9月	21日			一、泰安寺御普請是迄北引請掛五郎中取封候由、同人出版候願二村一	
			22日			一、泰安寺御普請給問答迄之差出大目付へ差出ス	
			10月	21日			右御普請唯今取掛候得ず度案中ニ候ツ付候様相成御為折二相成不申候間年内本取致置来正月早々取掛候得者何と御都合宜有御願書迄之届出
天保13年	1842	11月	晦日		普請開始	一、泰安寺御普請給今無御相積候段普請迄之届出候二村承届ノ旨	
		2月	4日		境内立入禁止	一、泰安寺御普請中同内門ノ御用無之もの不可入と申願いたし度普請書迄申出候願一	
		2月	18日		地盤き固め	一、泰安寺御普請石穴修二村本由二相成候様作事申立候二村大目付へ差出ス	
		3月	7日		地盤き固め	一、今取掛泰安寺御普請高差越二村地突相給候通事候願内申出候手仕度奉願候一京府年寄連一 大年寄宛	
			14日		材木調達	一、泰安寺御普請御用木人村京安部と申込下用いたし候間一	
			17日		地盤き固め	一、泰安寺御願所地盤二村同江津安西坂下浦ノ地廻相候間地方宜取候様一	
			25日		地盤き固め	一、今取掛御普請二村地盤御手修め方届出候迄地盤相候間土持砂待等申候二村多人数のもの道且不足いたし候間諸々道具持参候一人二村五分五厘ノ下取置奉存候此段奉願候以上	
			28日		土持砂待	一、丁三丁日泰安寺御普請御手修相候間土持砂候二村大目付申候願一	
			4月	8日		一、泰安寺御普請中御手修林中ノ所ノ所伏見相願二村例ノ通り取掛候一	
			13日			一、泰安寺御普請御上之御式地蔵院御宮建立之節も有候間取二村御願宣立御祈之式御祈止二面可然旨大目付申進以上表門相達連之	
	11月	28日		一、西所至泰安寺御普請御手修御願二相成候段大目付申候願二村作事方へ申進ス			
	12月	13日		一、御願上無御相積候段々々大目付相達			
				普請出来	一、泰安寺普請出来二村普請見分之取繕書迄申出有之大目付へ申進候願十四日早候可願旨申願一		

表1 造営および改修の記録(出典:愛山文庫E8『勘定奉行日記』)

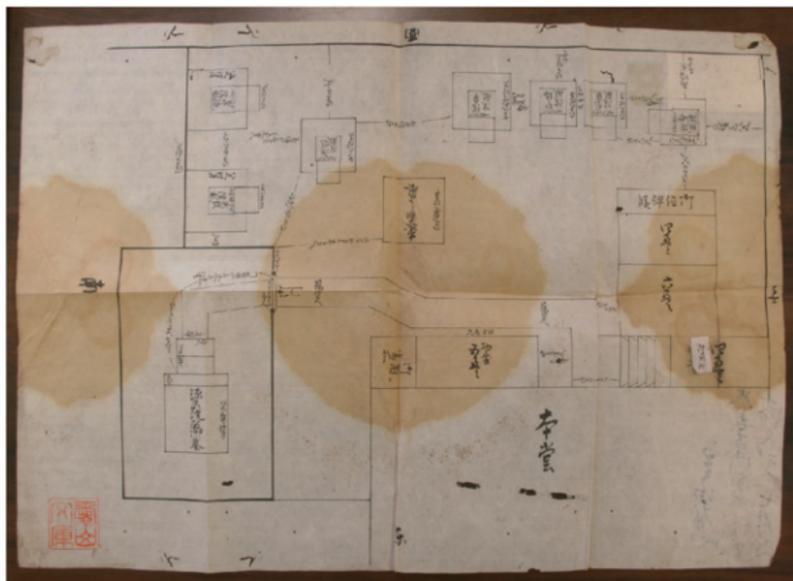


図3 愛山文庫M7-2「泰安寺御廟所絵図」文化元年(1804)7月

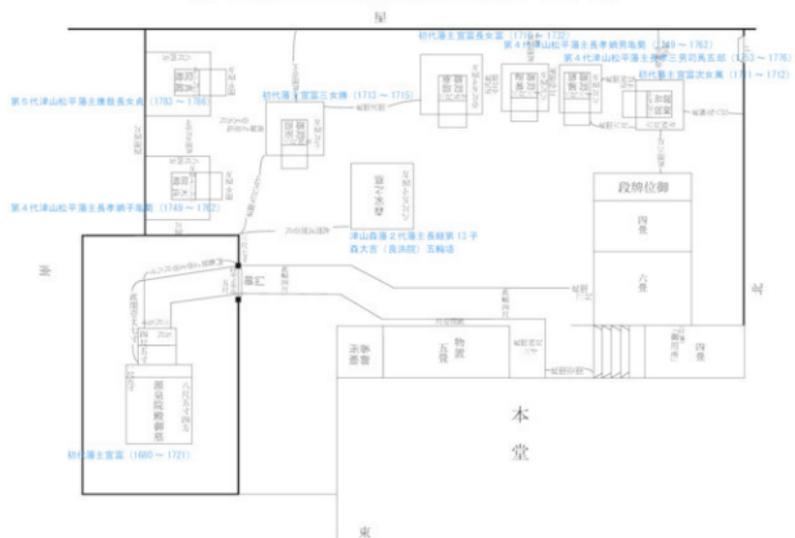


図4 愛山文庫M7-2「泰安寺御廟所絵図」文化元年(1804)7月 書き起し

庫E1『国元日記』天保13年11月28日条)。

齊民は將軍家齊の実子で、齊孝の養子である。そのため、御霊屋には公儀(將軍家)と津山松平家の先祖が祀られている(愛山文庫M7-7-6550『[神社役所取扱]泰安寺絵図』同M7・6『泰安寺考之図面 同寺古図面法])。

御霊屋上梁文は棟札形式のものである(図6)。表面には齊民の撰文を記し、裏面には藩の家老以下造営に関わった役人の名を列記している。棟札にしては、他にあまり例のない独特の様式のものであり、額文様式を採らず、寺家・檀那・梵字・經典からの引用などの記載もない。

また、撰文を見ると、「我家累代之牌真右蓋追遠者國之大事而歸民之善教」と記している。追遠とは『論語』学問第一にある「曾子曰、慎終追遠、民德歸厚矣(曾子曰く、終わりを慎み遠きを追えば、民の徳厚きに帰す。)」といった儒教的な先祖祭祀のあり方を指すのだろう。つまり、ここでは仏教式の「追善」供養ではなく、「追遠」すなわち儒教式の祖先祭祀が行われたことがわかる。また、為政者が喪礼でまごころを尽くし、「孝」の模範を示すことは、民を善く教え導くことにつなが

るという道徳観念も示されている。

このような儒教的な祖先祭祀や道徳観念に基づいて御霊屋の造営が行なわれたのだろうか。城下町人が町単位で地掘きや土砂の運搬などの奉仕活動を行なっている。

なお、宣富と齊孝を除く歴代藩主は江戸天徳寺(東京都港区虎ノ門)に埋葬されている(『松平家御系圖』『津山温知會誌』第貳編)。国元で藩主の葬儀が執り行われたのは、初代藩主宣富の死去以来のことであった。



津山松平藩7代藩主松平齊正室涼晴塔石塔  
五輪塔  
高 358 cm  
幅 137 cm

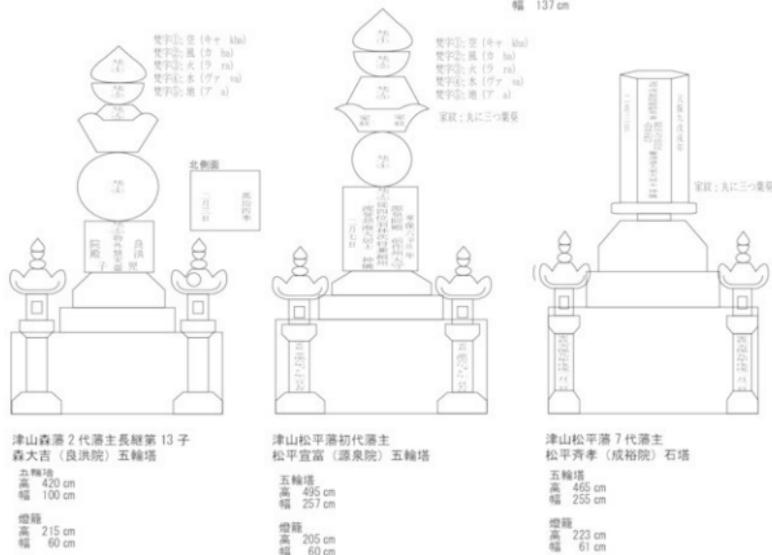


図5 境内に祀られている石塔

恭惟中興祖 源泉公從封聖藩、地外部使就寺觀之裡新造拾流之所、因次采椽之候、備往觀之遺訓、行葦洞酌之懸靈、尊靈於采椽、  
 既而歷世七經年、過百速不再齊民、以幼冲之齡、結煥然之業、春秋祭祀、馨德無聞、夙夜禱、玉構或陟、皇考成裕公、靈焉見背、雖號昊天、  
 誰應我諸居憂、豈堪暗夜失據、感精幹之受命、思隆擊我之指有奈、烏免之候、遷迅、際胸之奔逸、因極之患、雖報大祥之祭、既畢、載詢廷改作、  
 路寢、伐村北嶽、雲采岩、南山、顯經之宮之庶民、子來是慕、是凡、象上、馬仔、雖殊、諸侯、五朝之數、茲創一屋、二室之制、有榭、有閣、輪乎、奐乎、於焉、  
 大府四宗之主、安在我家、某代之陣、實行、蓋追遠者、國之大事、而踵厚民之善教、講狀、良辰、落之日、撰善頌、誌之、  
 拋梁東 爪鼓、總々、及序、躬、歸、武、經、文、德、應、馳、奉、揚、日、出、嘉、雄、風、 拋梁西 太平久、不動、世、鼓、畢、聖、思、湧、泛、舟、楫、德、萬、生、靈、壽、域、疏、  
 拋梁南 熊、麗、人、夢、百、斯、男、家、庭、雍、雍、得、薰、風、禮、即、是、祖、宗、聲、教、覃、 拋梁北 延、中、百、司、元、溫、克、拱、辰、佑、若、乘、星、羅、執、邊、咸、稱、職、  
 拋梁上 五、風、十、雨、和、暢、柔、盛、精、潔、氣、通、天、何、獨、萃、分、輝、鬱、思、 拋梁下 森、然、廟、貌、真、宗、社、神、威、咫尺、拂、妖、災、長、見、不、麻、祀、被、野、  
 伏願、廟、成、後、本、支、庇、蔭、昭、穆、列、序、內、調、琴、瑟、盡、為、子、道、外、勸、弓、馬、繩、其、 祖、武、鏡、々、業、々、爾、々、爾、々、爾、箇、匪、懈、表、誠、向、日、之、葵、福、祿、福、強、比、榮、冬、之、松、  
 天保十三年歲次壬寅秋 正四位上行左近衛中符三河守源朝臣齊民再拜謹撰

家老 永見小判部 源 國綱 大目付 村山左仲 源 正寬 辨定奉行 大膳御用奉行御用 權掾克房御奉行御用  
 安藤要人 藤原成行 渡部勘解由 卜部兼時 太田順平 源 景昭 作奉行 堀島全平 藤原成忠  
 佐久間長門 平 藤葉 松嶋郡平 源 栲 田淵守助 源 兼綱 三木素夫 丹波保定 同殿及 松本常吉 源 美次  
 古市善八郎 清原忠寬 川崎波江 藤原義和 馬場五郎平 源 直親 西村健治 源 照久 右衛 水嶋徳造 藤原昌行  
 三原金太夫 日下部兼行 大山左司馬 坂本國 小倉仁右衛門 藤原安藤

図6 天保13年御堂屋上梁文写(愛山文庫E1「国元日記」天保13年11月28日条)

### III. 御霊屋造営時の伽藍構想

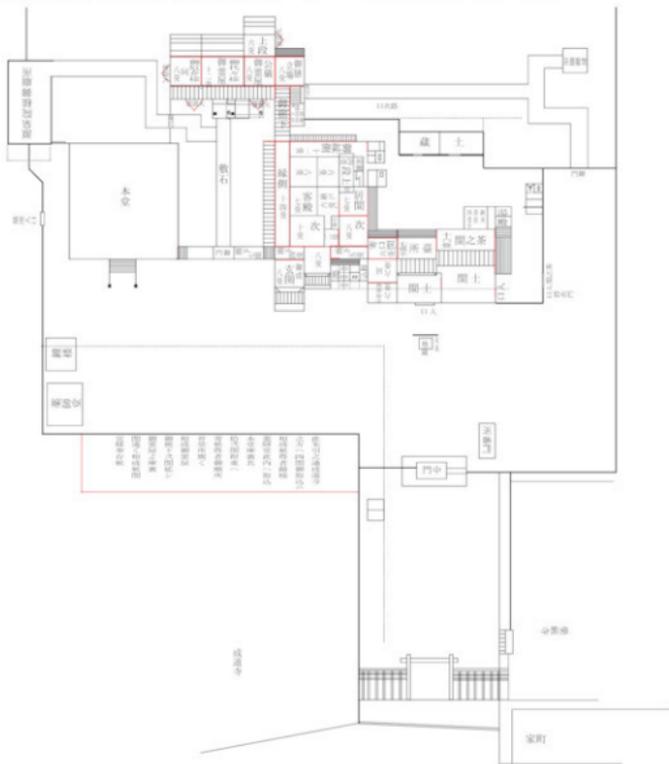
天保の御霊屋造営前に藩の作事方が作成したと思われる絵図の中に、同時期の絵図とは全く異なる伽藍を描いたものがある。愛山文庫M7-6「泰安寺考之図面 同寺古図面法」2点中の1点がそれである(図7)。

同図を見ると、本堂と庫裡の間に御霊屋へ向かって敷石の参道が伸び、そのぶん本堂と客殿の距離が離れ、長い渡り廊下で結んでいる。廊下の中央には門がある。御霊屋を参拝する時は、この門を通り、敷石の参道を進むという設計となっている。

この図が描く客殿と庫裡は、御霊屋造営直前のもの

ではない。天保9年の斉孝の御葬式の時に作成された絵図(愛山文庫C2・124『成裕院様御葬式之節泰安寺図』天保9年3月19点中の1点)には、寛政期と同じ形の客殿を簡略に描き、これに隣接する場所に寛政期にはなかった庫裡を示しているからである(図8)。

同絵図から作事方は本堂と鐘楼以外の建物の配置を改めることを進言したことがわかる。ただし、他の絵図と照合すると、このような伽藍は実現しなかったものと考えられる(図9・10)。



註) 薄い色のラインは朱書部分を示す。

図7 愛山文庫M7-6「泰安寺考之図面 同寺古図面法」(2点のうちの1つ) 書き起こし

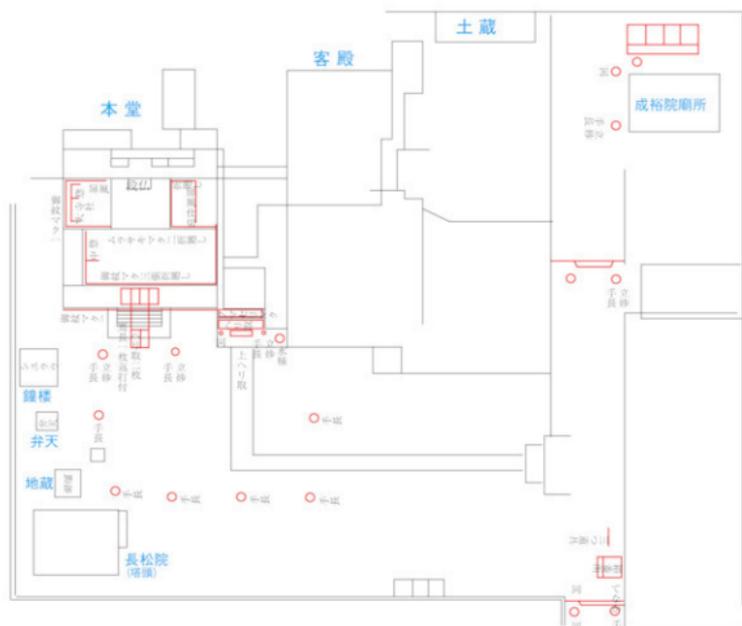


図8 愛山文庫 C2-124「成裕院様御式之節泰安寺園」天保9年3月（全19点中の1点）書き起こし

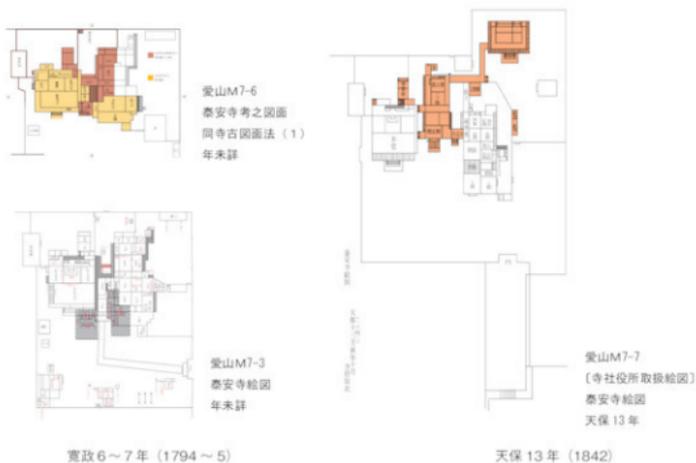


図9 境内の変遷

おわりに

- 以下、絵図・史料からみた造営・修復歴を示す。
- ・本堂（概ね寛永21年建立当初の形態を残す建造物）  
寛文21年（1644）建立棟札、寛政7年修理棟札写が残る。  
寛政6～7年（1794～5）の『勘定奉行日記』（愛山文庫E8）に改修の記録がある。
  - ・客殿（建築年代は未確認？）  
建立に関する史料は未確認。  
寛政6～7年改修。遊行上人がこの頃に止宿。
  - ・庫裡（19世紀初めの建造物）  
建立に関する史料は未確認。  
天保9年以降の絵図から建物の存在が確認できる。  
現存のような建物は天保13年の御霊屋普請出来以降の絵図で確認できる。
  - ・御霊屋（19世紀中の建造物）  
天保13年（1842）建立。  
建立の際に城下の各町から地突きに参加。

- 『国元日記』に上梁文写を記録。
- ・表門（17世紀中ばの建造物）  
建立年代未詳。  
寛政6～7年の絵図には境内の北側に位置。  
天保13年の御霊屋普請出来以降、境内東側に移る。
  - ・地藏堂（19世紀初めの建造物）  
建立年代未詳。  
寛政7年以降の絵図では本堂前に祀られている。  
天保期の伽藍改修後も場所を変えていないが、現在は境内の北東にある。

（参考文献）

- 『津山の社寺建築』津山市教育委員会、昭和63年）第IV章 個別解説（細見啓三執筆）  
主室文雄「幕藩領主と遊行上人 - 岡山藩の場合 -」（『日本における国家と宗教』大蔵出版、1978年）  
加地伸行『沈黙の宗教 - 備前』（筑摩書房、1994年）、「論語」増補版（講談社、2009年）

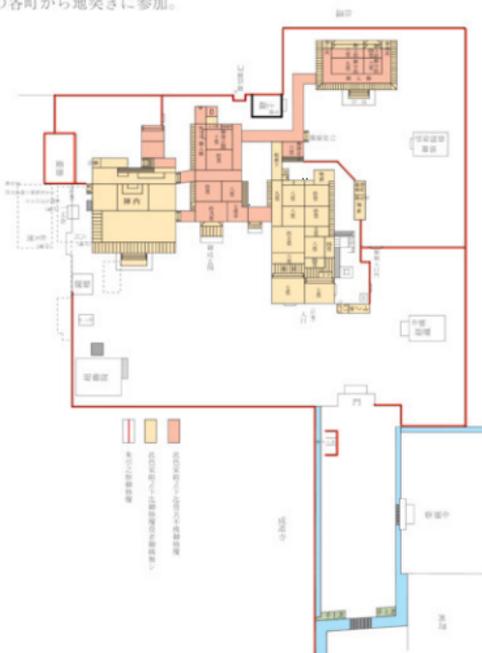


図10 愛山文庫M7-5「天崇山泰安寺御構所色別絵図」年未詳 書き起こし



## 美作の狛犬 (3)

田淵千香子

### はじめに

前回の調査では、美作地域のうち真庭市・新庄村近辺の狛犬を調査した。そして、半数以上を占める出雲型狛犬について触れ、そのルーツを追った。小稿では、美作地域の神社 279 社中 172 対の狛犬を調べ、出雲型狛犬の展開についてまとめる。さらに、美作地域の各所で確認できる津山城の石垣と同質の凝灰岩で造られた石造物についての中間報告をする。

### 美作地域の出雲型狛犬

美作地域の狛犬の調査を進める中で、同じ地域内でも奉納する狛犬の種類等に違った傾向がみられることが分かった。例えば、津山市内には、狛犬が 68 対所在している。その内出雲型狛犬は、18 対である。さ

らに、来待石製の出雲型狛犬になると 18 対中 7 対がそれにあたる。この 7 対の中では、津山市宮脇町の徳守神社の本殿前のものが明治 40 年 (1907) と最古である。これ以外の狛犬は全て昭和時代に入ってからのものである。そのため、江戸時代には、来待石製の出雲型狛犬が市内には入ってきていないことが分かる。

しかし、津山市から鏡野町を抜け真庭市、新庄村へ向かうと少し違った趣をみせる。ここで見られる狛犬は、86 対中 48 対が出雲型狛犬であり、全体の半数以上を占めている。また、石材別で分類すると来待石製の 25 対、地元の石材等で造られたものが 23 対である。この内、江戸時代に奉納されたものが 13 対あり、真庭市勝山の玉雲宮出雲大権現は文政 6 年 (1823)・真庭市中和の山王大権現社は天保 11 年 (1841)・真庭市



写真 1 玉雲宮出雲大権現  
(真庭市勝山)  
文政 6 年 (1823)



写真 2 山王大権現社  
(真庭市中和古田)  
天保 11 年 (1841)



写真 3 権田神社  
(真庭市中福田)  
文久元年 (1861)

### 江戸時代の来待石製出雲型狛犬



写真 4 八徳神社  
(真庭市美作)  
文化 7 年 (1811)



写真 5 長田神社  
(真庭市下長田)  
慶應 4 年 (1851)



写真 6 国三神社  
(真庭市中和)  
嘉永 4 年 (1851)

### 江戸時代に来待石以外の石材で造られた狛犬

中福田の福田神社は文久元年（1861）の3件が、来待石製の出雲型狛犬である（写真1～3）。このことから、美作地域の内でも真庭市、新庄村近辺には、江戸時代に来待石製の出雲型狛犬が入ってきていることが分かる（図1.1）。

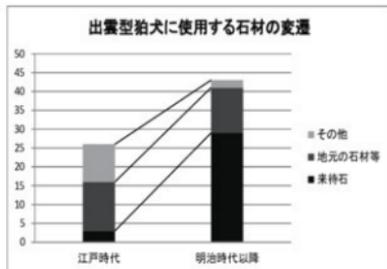
また、江戸時代に奉納されている出雲型狛犬の中には、地元の石材等で造られたものが美作地域の各所でみられる。その中では、真庭市美甘の八幡神社の狛犬が文化7年（1811）と美作地域の出雲型狛犬の中では最古のものである（写真4～6）。このように、江戸時代には、美作地域でも、より出雲国に近い地域で多くの出雲型狛犬が確認できる。

#### 明治時代以降の来待石製出雲型狛犬

江戸時代には、真庭市や新庄村近辺でしか確認できなかった来待石製の出雲型狛犬が、明治時代になると美作地域の各所で確認できるようになる（図1.2）。このことは、来待石製と地元の石材等で造られた狛犬を時代で分けてグラフにしたものをもみても分かる（グラフ1）。これを見ると、江戸時代と明治時代以降では、後者の方が来待石製の出雲型狛犬が顕著に増加していることが分かる。これは、江戸時代までの来待石が御止石として藩の許可なしには販売することができなかったことに由来すると考えられる。明治時代に入り、来待石の流通が自由になると、全国的にも来待石製の出雲型狛犬が見られるようになり、美作地域へも例外なく入ってきていることが分かる。明治時代以降、最も早く来待石製の出雲型狛犬を奉納しているのは、新庄村の御鴨神社に所在する明治29年（1896）のもので

ある。続いて、真庭市見明戸の護国神社は明治30年（1897）・真庭市美甘の美甘神社は明治31年（1898）・真庭市間の大宮神社は明治35年（1902）・鏡野町中谷の中谷神社は明治36年（1903）・津山市宮脇町の徳守神社は明治40年（1907）に各々奉納されている（写真7～9）。これ以降になると、愛知県岡崎型狛犬などが入る中でも、真庭市近辺で23件、津山市内には6件、その他の美作地域でも数件の来待石製の出雲型狛犬が確認されている（図1-2・図1.3）。

さて、美作地域の石工の中に来待石製の出雲型狛犬を造る人物が出てくる。「石工 田淵良次郎」である。津山市上田邑の田神社の昭和8年（1933）に造られた狛犬を初め、市内はもちろん、美作市江見の江見神社の昭和10年（1935）の狛犬も製作している。田淵良次郎は、鳥取へ出雲型狛犬を造る為の修業に行ったことが分かっており、美作地域の来待石製出雲型狛犬の普及に一躍を担ったものと思われる。また、新見市千屋の千屋神社の狛犬は、大正4年（1915）に奉納



グラフ1



写真4 美甘神社  
（真庭市美甘）  
明治31年（1898）



写真5 中谷神社  
（鏡野町中谷）  
明治26年（1893）



写真9 徳守神社  
（津山市宮脇町）  
明治40年（1907）

明治以降の来待石製出雲型狛犬



写真 10 御鳴神社  
(新庄村)  
慶應2年(1866)



同台座銘



写真 11 地山神社  
(津野町)  
明治5年(1872)



同台座銘

#### 「石工 伯州倉吉住 文四郎」制作の石造物

された来待石製の出雲型狛犬である。台座には「伯州 福嶋意」と書かれ、津山市の石工が鳥取へ修業に行っていたことを合わせて鑑みると、江戸時代には松江の城下でしか製造を許されなかった来待石製の出雲型狛犬が、明治時代に入り来待石の販売が自由化されたことによって、受注が増えた。こうした変化の中、近隣の鳥取に製造工場が出来たものと考えられる。しかし、美作地域では、来待石製の出雲型狛犬が戦後を境にあまり見られなくなる。最後に確認できるものは、真庭市平松の平松神社の狛犬であり、昭和39年(1964)に奉納されている。

#### 伯州の狛犬と石工

美作地域で見られる狛犬や石造物の中には、伯州の石工が幾人か確認できる。特に、来待石製出雲型狛犬を模して造られた狛犬の中に、伯州由来のものが見られる。新庄村の御鳴神社の狛犬は、慶應2年(1866)・鏡野町松山の松山神社の狛犬は、明治5年(1872)に造られ、その台座には「石工 伯州倉吉住 文四郎」と書かれている(写真10・11)。この他にも狛犬ではないが、中森山の日留神社にある石の宮は、明治2年(1869)に文四郎が造ったものと確認されている。文四郎の作品をみると、全体に出雲型をベースにしつつ、細やかな表現が成され、バランスもとれた丁寧な仕上がりである。しかし、「石工 文四郎」については、鳥取県の倉吉に住んでいて、美作地域への仕事も受けていたということが分かっているだけである。さらに、鳥取県内では文四郎の石造物は確認されておらず、史料も存在していないため、その足跡を追うことは困難である。今後の調査で、なんらかの足掛かりが見つか

れば幸いである。このように、美作地域では伯州の石工路の立った石造物は少ないが数点見られる。来待石製の出雲型狛犬が珍しかった江戸時代、近隣の鳥取でそれに倣った狛犬が造られ、美作地域にも運ばれていたことが分かった。

#### 津山城の石垣と美作国の石造物

美作地域を調査すると、狛犬・御神燈・鳥居・石柱など、津山城の石垣に使われている石材と同質と思われる凝灰岩製の石造物が多く確認できる。この凝灰岩製の石造物について考察する。

津山城の石垣は、主に津山市大谷の石山寺周辺の石切場や、金屋山の石切場で採石されていた(写真13・14)。しかし、この石は学名を「凝灰角礫水成岩」といい、石垣や石段などには向いているが水分を含むともろくなり、狛犬や御神燈、鳥居などには向いていないことが分かった。そのため、大谷の石切場では明治時代以降になると採石されなくなったようである。ま



写真 13 津山城石垣



写真 14 石山寺 石切場跡  
(津山市大谷)

#### 津山城の石垣と石切り場跡



写真 15 美作神社  
(津山市高野本郷)  
天保 15 年 (1844)



写真 16 美作神社  
(津山市北)  
慶永 6 年 (1854)



写真 17 大美彌神社  
(津山市香々美)  
弘化 3 年 (1847)

美作国内の凝灰岩で造られた狛犬

た、津山城築城に際しては多くの石材を要したため、上記に挙げた場所以外にも美作国内の各所で採石が行われた。それでも需要が賸りなかつた為、美作国内の古城の石材や古墳の石椁・石棺、墓石までが提出されたという伝説もある。

今現在の調査では、美作地域内に 83 件の凝灰岩製の石造物が確認されている。その内、年代が確認できるものが 61 件あり、江戸時代は 27 件、明治時代は 23 件、大正・昭和時代は 9 件となっている。江戸時代でも、寛政期から嘉永期にかけての奉納数が多いことなどは、花崗岩やその他の石材で造られた石造物と同じ傾向を示している。確認がとれている範囲内で一番古いものは、美作地域でも東部にある美作市豊国原の豊国神社の御神燈で、文政 2 年 (1819) に奉納されている (写真 18)。また、津山市上田邑にある田神社の御神燈が、天保 3 年 (1832) 年に奉納されている (写真 20)。美作地域の南部に行くと、美咲町飯岡の飯岡神社の御神燈が、弘化 2 年 (1846) に奉納されている。このように、

津山市内はもちろん、鏡野町・美咲町・美作市などにも江戸時代の凝灰岩製の石造物が確認できる (図 21)。さらに、調査が進めば分布範囲は東へ南へと広がるものと考えられる。特に鏡野町には、確認できている範囲だけでも 19 件中 15 件の凝灰岩製の石造物があり、その内の 6 件が江戸時代のものである。

江戸時代の石造物の中には、凝灰岩製の狛犬も所在している (写真 15・16)。鏡野町香々美の大美彌神社の狛犬は、弘化 3 年 (1847) に奉納されている。ふっくらとしたあんこ型で、津山市内のもと同様にユーモラスな容姿をしている (写真 17)。さらに鏡野町の調査によれば、宝篋印塔・五輪塔・六面幢などに凝灰岩製のものがあることが分かっている。

しかし、美作地域内であっても真庭市・新庄村周辺では、凝灰岩製の石造物を確認することができなかった。

明治時代に入り、石山寺の石切場での採石は終了する。しかし、分布図をみると、美作地域の各所で明治時代以降も凝灰岩製の石造物が確認できる (図



写真 18 豊国神社  
(美作市豊国原)  
文政 2 年 (1819)



写真 19 田神社  
(津山市上田邑)  
天保 3 年 (1832)



写真 20 白知楽神社  
(津山市小田中)  
明治 8 年 (1875)



写真 21 七森神社  
(津山市坪井)  
昭和 15 年 (1940)

江戸時代に凝灰岩で造られた御神燈

明治時代に凝灰岩で造られた御神燈

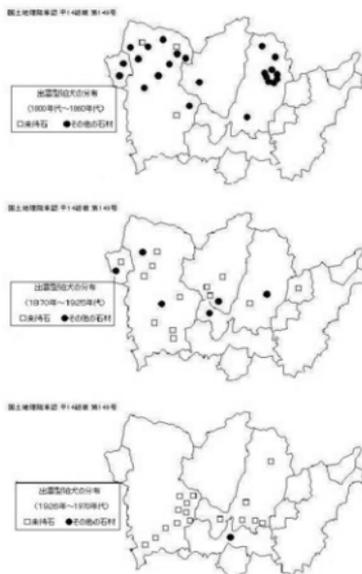


図1 美作地域の雲型狛犬の分布図

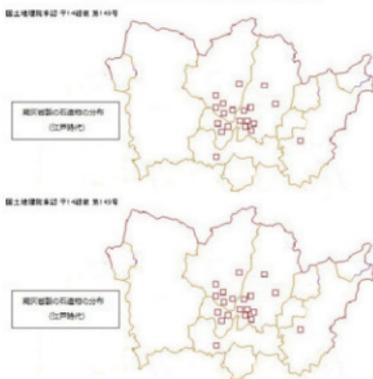


図2 凝灰岩製の石造物の分布図

2-2) 津山市井ノ口の石切場では戦後まで、津山市種馬周辺の石切場では昭和の中頃まで採石されていたことが分かっている。今後の調査では、このあたりに留意して年代ごとにみられる石材やデザインなどの特徴が分かればと考えている(写真20・21)。

## まとめ

小稿では、美作地域に所在する出雲型狛犬についての調査結果をまとめた。その結果、美作地域内の出雲型狛犬が真庭市、新庄村近辺で多く確認でき、狛犬の半数以上が出雲型であることが分かった。こうした中でも、江戸時代の来待石製の出雲型狛犬は珍しく、数件しか所在していない。他のものは、地元の石材等が出雲型を模して造られたものが殆どであることが分かった。明治時代に入ると、全国的に来待石製の出雲型狛犬が増える。それは、来待石の自由化が成された為であると考えられる。美作地域でも、江戸時代は数件しか入ってこなかった来待石製の出雲型狛犬が、明治時代以降には明らかに増えていることがわかり、昭和の半ば頃まで確認することができる。前号に引き続き、出雲型狛犬について考察してきたが、以上でまとめたい。

また、美作地域に分布している津山城の石垣と同質の凝灰岩製の石造物についても言及した。津山城の石垣に使われている凝灰岩は、美作国の各所で採石されたもので、美作地域に分布している石造物も同じ場所から採石された可能性があることが分かった。ただし、採石場によっては採石されていた時代が限られているので、年代による分布についても気を付けてみていかなければならない。今回の調査では、まだ美作地域全域の悉皆調査が全て終わっておらず、何らかの傾向を示すことはできないため、中間報告とした。

小稿を記すにあたって、倉敷埋蔵文化財センターの藤原好二氏には多くの御助言をいただいた。来待ストーンミュージアムの永井泰氏、田渕石材、和田石材、石山寺の関係者の方にはご教示いただいた。現地調査や聞き取り調査では、様々な人にお世話になった。末筆ながら記して御礼申し上げます。

田渕千香子「年報 津山弥生の里 第17号」津山市教育委員会 2010年

来待ストーンミュージアムの永井泰氏の御教示による。

田渕石材の田渕清巳氏の御教示による。

石山寺関係者の方の御教示による。

津山市教育委員会『津山市史第3巻』1973年

苔田ダム水没地域民俗調査委員会『奥津町の石仏』2004年

石山寺関係者の方の御教示による。

vii 津山市教育委員会『津山市の文化財』2010年

ix 鏡野町教育委員会『鏡野町の石造物』2003年

x 作東町教育委員会『作東の石造物』2006年

x 1 田渕千香子「年報 津山弥生の里 第18号」津山市教育委員会 2011年

番号	神社名	所在地	寄進年	石工銘	体調 (cm)	姿勢	材質	型	保存状態
1	玉雲宮出雲大権現	真庭市勝山	文政 6 年 (1823)	不明	120cm	座	来待石	出雲型	良し
2	山王大権現社	真庭市中和	天保 11 年 (1841)	不明	57cm	構	来待石	出雲型	少し心配
3	福田神社	真庭市福田	文久元年 (1861)	不明	111cm	座	来待石	出雲型	良し
4	八幡神社	真庭市美甘	文化 7 年 (1811)	不明	46cm	座	その他の石材	出雲型	良し
5	長田神社	真庭市上長田	嘉永 4 年 (1851)	松州久米郡 堀村石工 助・頼治	86cm	座	その他の石材	出雲型	良い
6	国司神社	真庭市中和	嘉永 4 年 (1851)	不明	59cm	座	その他の石材	出雲型	良し
7	美甘神社	真庭市美甘	明治 31 年 (1898)	不明	91cm	構	来待石	出雲型	良し
8	中谷神社	鏡野町中谷	明治 36 年 (1903)	不明	84cm	構	来待石	出雲型	良し
9	徳守神社	津山市宮脇町	明治 40 年 (1907)	不明	79cm	座	来待石	出雲型	良し
10	高鴨神社	新任村	明治 29 年 (1896)	松州倉吉文 四郎	94cm	座	その他の石材	出雲型	良し
11	椋山神社	鏡野町高山	明治 5 年 (1872)	松州倉吉文 四郎	80cm	座	その他の石材	出雲型	良し
12	高野神社	津山市高野本郷	天保 15 年 (1845)	桶屋町安田 の豪吉金兵 衛	54cm	座	凝灰岩	大阪の狛犬	良し
13	美作総社宮	津山市総社	嘉永 6 年 (1853)	不明	91cm	座	凝灰岩	大阪の狛犬	良し
14	大美湯神社	鏡野町香々美	弘化 3 年 (1847)	不明	57cm	座	凝灰岩	大阪の狛犬	良し
15	豊国神社	美作市豊国原	文政 2 年 (1819)	不明					良し
16	田神社	津山市上田邑	天保 3 年 (1832)	不明					良し
17	白加美神社	津山市小田中	明治 8 年 (1875)	不明					良し
18	七森神社	津山市坪井	昭和 15 (1940)	不明					良し

印刷仕様

紙質	表紙	レザッククリーム	175kg
	本文	ニューエイジ	90kg
D T P O S		Windows 7 Ultimate	
	DTP	Adobe Indesign	CS4
	図版作成	Adobe Illustrator	CS4
	写真調整	Adobe Photoshop	CS4
	Scanning	35mm・6×7film	EPSON GT-X 970
		図面類	GRAPHTEC IMAGESCANNER TS7000
使用 Font	モリサワ	OpenType	基本7書体（じゅんPro、リュウミンProL-KL、見出ゴMB31Pro、見出ミンMA31Pro、太ゴB 101Pro、太ミンA101Pro、中ゴシックBBBPro）
画像原稿	階調画像線数は175線		
印刷	印刷所へは、PDF X-1a (2001) で書き出して入稿		

年報 津山弥生の里 第19号（平成22年度）

2012年3月25日発行

発行 津山市教育委員会  
文化課  
〒708-0824  
岡山県津山市沼600-1  
TEL.0868-24-8413 FAX0868-24-8414  
印刷 津山朝日新聞社

